

教育目標	すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる
めざす学校像：	①生徒の人格が尊重される学校 ②豊かな人間関係が育む学校 ③生徒の未来を見据えた学力を育む学校
めざす生徒像：	「自己表現し、認め合える生徒」(令和4年度改訂)
めざす教師像：	①生徒の人格と多様性を尊重する教師 ②より良い集団をつくり個々を育てる教師 ③ 授業を通して生徒の未来を明るくする教師

項目	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	改善策	学校関係者評価記入欄	
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)			
学習指導	1 基礎	既習事項を次の学習や生活に活かしていく視点で、基礎的・基本的事項の習得を図る。	基礎的・基本的な知識・技能の向上を図る。支援型、個別最適化型への授業改善を目指す。	①授業のユニバーサルデザイン化の標準化とタブレットPC,ICT機器活用場面を開発する。 ②生徒の側に立ったサポート教室の活用を行う。 ③オンライン学習の個別活用を行う。	3	3	3	3	◎タブレットPC・ICT機器の効果的活用を推進するとともに、ひとりの生徒から発想する個別最適化型への授業改善に取り組み、生徒・保護者への説明も丁寧に行っていく。	◎どの授業も落ち着いて進められていてよかった。また、生徒の掲示物も工夫の凝らされた取組が多く、興味深かった。
	2 活用	主体的・対話的で深い学びを標準とし、ICTを高度に活用した指導技術の改善を図る。	各教科での学びによる見方・考え方を生かし、総合的な学習の時間を改善する。	①授業、校内研修、保護者会等において各教科の見方・考え方の例を適切に発信・共有する。 ②国分寺学の構築および目指す生徒像にせまるカリキュラム・マネジメントを進める。	3	4	3	3	◎主体的・対話的で深い学びが高い次元で実現できるよう、研究授業等、授業改善の取組を進めるとともに、国分寺学の推進を通して、教科横断的な学習活動を再構築していく。また、学校公開等のやり方を工夫し、生徒・保護者への理解を図っていく。	◎ICT機器を利用した授業が定着しており、教育効果が期待できると感じた。 ◎「教える授業から学びの支援への変換」という新しい授業に向けて、先生方の技量を高め頑張っていってほしい。
	3 評価	生徒の努力と成果に対する、適正な評価・評定の実施。	公的学力調査結果などを踏まえ、適切な評価基準を定める。	①教科部会、各研究会での研究を推進する。 ②3観点による評価の説明、年間指導計画・評価計画、評価材料配点の家庭配布を行う。また、授業での説明も行う。	3	3	3	3	◎今年度の反省をもとに、今後も、全教科毎の評価材料について年度当初に示し授業での説明も行うなど、丁寧な対応を続けていく。また教員の意識向上を図る研修等も行っていく。	◎学校で行っている活動を、もっと知らせてもらいたい。また、学校公開などで学校に来やすい雰囲気をつくってもらいたい。
	4 道徳	特別の教科 道徳を適正に実施する。指導方法と評価方法を刷新する。	考え議論する道徳授業への質的転換への試みを図る。	①年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業を実践する。 ②いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげる。	3	3	3	4	◎今後もいじめ防止をはじめ、生徒の温かな心を養っていくために、研究授業や研修会を実施し、教員の授業力向上と苦学意識の払拭を目指していきたい。また、道徳授業地区公開講座のやり方を工夫し、保護者への理解をさらに深めていきたい。	◎道徳は子供たちの心を育むためにとても重要であると思う。生徒の考えを知りたい。
生活指導・進路指導	5 人権	生徒の人格を尊重し、個性を伸ばしながら、社会的資質や行動力を高める。	人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。	①授業や行事等の教育活動の中で、すべての人はかけがえのない存在であり、すべての人の尊厳を守ろうとする意識と行動力を育む。 ②教室環境、言語環境を整える。教師側の察知力・価値観の受容力を高める。	3	3	4	4	◎研修を通して人権感覚を磨き、人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む取組を継続するとともに、今回見つけられた課題の解決に向けて、学級・学年・学校全体で取り組んでいく。	◎研修等を活用し人権感覚を磨く取組を継続し、より意識を高めていってほしい。インクルーシブ教育を進めることは、生徒にとって人権、人格、人間性について考える上で大切な経験となる。
	6 支援	様々な困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	障害者差別解消法に基づき、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う。	①特別支援教育担当教員を中心に関係機関との連携を図り、組織的な相談と支援を行う。 ②支援教室を含む校内組織の改善、教職員・生徒・保護者への啓発活動を実施する。	3	3	4	4	◎今後も継続して、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う取組を継続するとともに、校内研修等を通して教員の理解と意識の向上を進めていく。また、こうした取組をSNS等を使って積極的に発信し、生徒・保護者への理解につなげていく。	◎四中の特別支援教育の取組は大変手厚いと感じている。これからも生徒や保護者の困り感に寄り添い、対応をしていってほしい。
	7 安全	生徒の危機管理意識を高めるとともに、自他の命や安全を守れるようにする。	情報通信機器および巨大地震を中心に危機管理意識を高める。	①生徒の主体性を生かした活動を進め、規範意識やネットリテラシー向上を図る。 ②地震発生時の保護者引き渡し、救急救命、薬物乱用防止、SOSの出し方に関する教育を行う。	3	3	3	3	◎学区の安全マップ作成や、防災頭巾の常備など新たな取組を行ってはいたが、生徒・保護者への積極的な啓発には至らなかった。次年度は保護者・地域ともに行う安全指導を考え、実践していきたい。	◎災害時に中学生が実働できるような指導を今後もお願いしたい。国分寺学などの取組で生徒の活動に取り入れていけるとよい。
	8 進路	生徒の自己理解を深め、生き方を考え、主体的に進路選択ができるようにする。	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	①人間関係形成、社会参画、自己実現、働き方の視点で将来設計能力を育む。 ②1年で職場体験、2年で上級学校体験、3年で進路に関する指導と支援を行う。		3		3	◎進学・就職等の中学卒業後の進路に向けた指導だけでなく、地域や社会でどう生きるかを考える進路学習を、来年度から始まる「国分寺学」を通して考えさせていく。また、保護者や地域にもこうした取組を発信し、協力を仰ぎながら進めていく。	◎職場体験の再開などにより、自分の生き方についての意識づけができるようになりよかった。
特別活動・その他	9 学級	学級活動を通して、生徒全員が大切な居場所であることを実感できるようにする。	仲間を大切に学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進する。	①教室環境の整備、学習や生活のきまり、仲間を大切にできる学級づくりを行う。 ②誰もがその係や役割において主体的になれるよう支援し、尊重し合えるようにする。	3	3	3	3	◎今後も継続して、仲間を大切に学級づくり(認め合い、違いを尊重、礼儀)を推進できるように、取組を続けていく。学年、学校体制で学級担任を支え、指導や環境整備についての共通理解を図っていく。	◎学級が生徒たちの居場所となるように、学校全体として引き続き取り組んでいってほしい。
	10 行事	行事を通して、連帯感と責任感を高めるとともにより良い校風を育む。	本校の伝統と校風を踏まえ、生徒会組織を活用しながら企画・運営を行う。	①運動会、合唱コンクールの2大行事、校外学習、移動教室、修学旅行を実施する。 ②1年校外学習、2年移動教室、3年修学旅行と系統的にねらいを定め実施する。	4	4	4	4	◎今後も、「自己表現し、認め合える生徒」の育成を目指して、各行事を実施していくとともに、主体的に生徒を活躍させる場面を意図的・計画的に設定した取組を続けていく。前年度の反省を分析・改善策検討をしたうえで、行事立案を行っていく。	◎今年度の四響祭は、コロナ禍で途切れてしまった流れを戻すのではなく、改善し新たな形を創っていくことで成功できたと思う。これからは、こういう変換を大事にしてほしい。
	11 自治	自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図る。	学校生活や地域社会の課題を自らの課題として捉え、行動できるようにする。	①いじめ防止では未然防止に力を入れ、四つ葉のクローバー運動を主体性をもって進める。 ②ボランティア活動を推奨し、各委員会活動においては校外へ向けた活動を広げる。	3	3	2	3	◎今後もいじめ防止フォーラムへの参加や、四つ葉のクローバー運動をはじめとする自主的・実践的な生徒会活動を継続していくとともに、生徒・保護者に対してのアナウンスを丁寧に行い、理解を深めていく。	◎募金活動や主体的な委員会活動は、生徒の自己肯定感につながるよい活動であった。この実績をこれから始まる「国分寺学」につなげていくとよいと思う。
	12 特色	生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	関係機関や外部講師等の招聘、各活動等から、持続可能な社会を考え、学ぶ。	①生徒の学びを助けるタブレットPCの効果的かつ適正な使用を発展的に進める。 ②地域を生かし、繋がり、地域に役立つ学び・活動を創出し、国分寺学の基礎をつくる。	3	3	3	3	◎今年度作成した国分寺学カリキュラムを確実に実践し、3年間の道筋を創り上げていく。そのためにも小中連携した研修会やCSを活用して、学校・地域全体が共通理解を図った活動をしていく。	◎地域貢献活動は、生徒にとっても地域にとっても大いに期待できる取組である。どんなものになるのか興味深い。

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（ABCD4段階）を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。